

※テーマごとにA～Cグループに分かれて課題について話し合いを実施。

◆第1回 あま市地域懇談会（ワークショップ）まとめ◆

【Aグループ】

テーマ① 互いに支え合うきずなづくり

協働の推進

- ・協働の推進
- ・行政内（各課）の連携→たて割りの解消

さまざまな立場、世代の人の相互理解

- ・バリアフリー化が整った街
- ・障がいに対し偏見と差別がなくなるように
- ・精神障がい者への偏見をもたない街
- ・精神障がい者でも安心して一人暮らしができる街
- ・障がい児（者）が生まれ育った地元で普通に一生暮らせていける街
- ・学童保育等に預ける事に後ろめたさがない街
- ・子育て世代の親も安心して働ける街
- ・災害時に安心して避難、避難生活ができる街（高齢者、障がい者、子供達）
- ・世代間交流（子ども、子育て世代、高齢者）

ご近所づきあいの低下

- ・道路にゴミ（缶・ペットボトル）散乱しているが気にしない人が多い
- ・何か困っている方がみえたら気軽に声かけができた
- ・地区の中で、同じ組・班の人の名前・顔はわかりますが、他の組・班の人の顔・名前がわからないことがあり、挨拶もできないことがある
- ・友達を多く作って話をする事。ボケない事。
- ・マンションが増えて住民の姿がみえない
- ・地区の行事（側溝清掃、ゴミ0運動）をするが、参加しない人がいらっしゃる
- ・一人暮らしの方の安否確認を進める
- ・あま市民としての所属感を高める
- ・地域住民との挨拶が少ない
- ・年齢が高齢化して近隣とのふれ合いがない（閉じこもり）
- ・地域に公共施設がない（近くに）
- ・地域の行事に積極的に参加できるようにしたい

市民としての意識低下

- ・町内での各イベントに参加する人が少ない
- ・地区の総会（年1回）に参加があまりなく、昔から住んでいる方と新しく転入された方とのふれあいが少ない
- ・地域のリーダーとしてボランティア活動に参加できる人を要請する

情報の共有不足

- ・行政による施策・事業や民間団体の活動の周知の徹底
- ・精神障がい者が地域に参加できる街（地域の行事や活動など）
- ・長い人生過ごしてきた方達の生きざま、考え方を聞けるような場所がほしい
- ・情報の公開（HPを見やすく！）
- ・老人にあげる作品をつくるのに困ることがある
- ・福祉の老人に作品をつくってあげるのがよいがつくるのに苦労します
- ・町内の中でコミュニティを作って頂きたい

テーマ② 地域力を高めるためのしくみづくり

社会的弱者に対する問題点

- ・隣近所とうまくつき合うには
- ・地域とのつながりをどうつくれば良いか
- ・健常者と障がい者とつどうことが(場が)無い
- ・障がいを理解してもらえない場がない
- ・各障がいに対して適切な対応
- ・障がいを理由に就労の機会が少ない
- ・障がいを持つ方々が自立して生活がしづらい
- ・偏見や見た目などの間違っただ情報が多

関係機関の施策に対する問題点

- ・気軽に相談できる窓口がわからない
- ・市民や関係機関の協力の必要
- ・少子化・核家族化により地域とのつながりが希薄になっている
- ・施設運営が困難な場合が多い
- ・社会資源の利用方法が旧市町村により異なる
- ・小学校から自閉症 etc の勉強を取り入れていく事も必要性を感じている
- ・気楽に集える場を提供しているが、参加してくれるママが少ない講座がある
- ・町内会、となり組とのつながりが希薄になっている
- ・地域福祉推進の体制作り
- ・周囲に気楽に相談できる人がいなくて、一人で子育てしている母親の孤立化
- ・交通の便がよく気軽に出かけられる街
市内巡回バスの運行
- ・近所の人との交流が出来る街
- ・高齢者福祉サービスが充実している街
- ・一人で安心して生きていける街

地域人材力に対する問題点

- ・人材不足
- ・責任が負担になる
- ・子供が小中学生になると働きに出る母親が増え、ボランティアメンバーをやめる人が増えて会員が減少、個人負担増
- ・広報で「子育て支援ボランティア」を一緒に活動しませんか？と募集したが申し込みは1人だった。アンケート6割？実行することの難しさ
- ・ボランティア参加にやりがいを感じない
- ・グループ化しやすい
- ・ゆとりがない(心・経済面)
- ・子どもを育成する
- ・見守り隊が以前あったが、声かけだけで何のメリットもなかったように思う(玄関先で対応のみ)
- ・知識をより深めるため研修に参加・援助を願いたい
- ・友愛活動の強化、家庭訪問月1度
- ・専門知識を持つ人材が少ない
- ・参加して自己満足を得て、より自分を磨いてゆく

テーマ③ いつまでも安心して暮らせるまちづくり

道

- ・高齢者や障がいのある方、子ども達が安心して歩ける(出かける)事ができる道づくり
- ・狭くて暗い道が多く、犯罪につながりやすい
- ・犯罪のない街
- ・歩道の安全
- ・自転車道と車道がはっきりわかる道
- ・歩道がない道路が多く交通事故に遭いやすい
- ・側溝の蓋がない所あり

地域福祉

- ・若年でも病気、ケガで買物に行けない時、代行して頂ける人がいる街
- ・今後買い物難民が増えてくる
- ・健康寿命の延ばし方の住民教育
- ・発達障がいなど、目に見えない障がいへの理解
- ・地域にある障がい者施設や利用できるサービスがよくわからない→福祉行政や社協との連携
- ・地域住民との交流やボランティア活動をコーディネートする役割(センターなど)の必要性
- ・コミュニティー管理者の福祉教育
- ・平均寿命の経緯と目標の明確化

地域のつながり

- ・老人会の入会について行政もオンドをとる
- ・親が積極的に行事に参加できる街
- ・地域で助け合う意識がうすいように感じる
- ・町内会組織の全員が参加する事
- ・町内会に入会する人が、特に若い世代で少なくなっている
- ・いろいろな行事に参加したがる人でも楽しめるような活動
- ・一人でも周りに助けてくれる人がいる街

交通の便

- ・車なしでも生活しやすい街
- ・あま市内バスが通る街
- ・市内全体を回るコミュニティバスを作る(他市町村は運行しているが)

医療

- ・総合病院が欲しい
- ・医療費負担の問題(他市町村は障がい者の医療費がすべて無料になっている所が多い)

目標

- ・愛着のもてる街

子どもの生活安全

- ・子どもからお年寄りまで広く交流。顔見知りを作る。
- ・地区ごとの子どもが集える場所(集会所・公民館開放)
- ・様々な世代(子供、高齢者、障がい者など)が日中、気軽に参加できる「居場所」づくり
- ・放課後子ども教室 全校実施
- ・子どもたちが安全に遊べる場所
- ・小学校の見守り(夕方校庭で遊んでいる子の)
- ・児童クラブは少ない(小さい)
- ・学区の割り振り
- ・子ども、親にとっても安心して遊ばせられる・遊ぶ事ができる公園
- ・子どもが安心して遊べる公園、広場

防災

- ・災害時の避難場所支援の街(近くに)
- ・あま市の海拔の状況を知らしめる
- ・地域の災害時、道具を持っている人を全員に知らしめる
- ・地域における災害教育指導者をつくる
- ・災害時、障がい児者など弱者に対する支援
- ・三連動地震の時、避難方法の徹底

